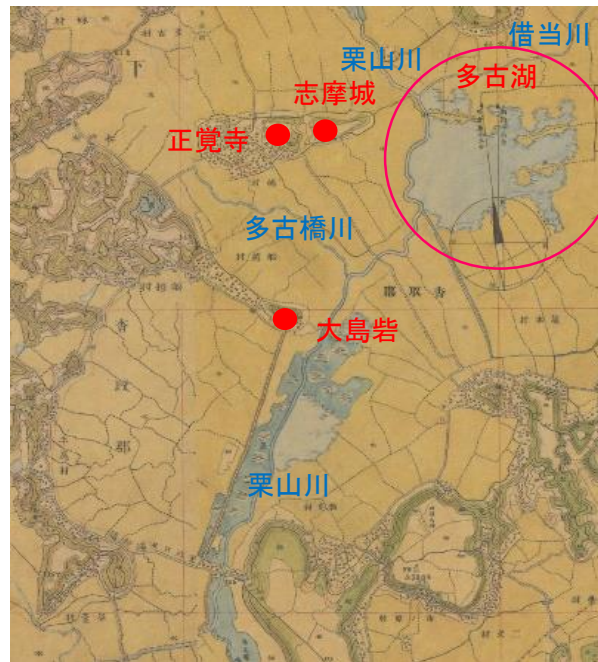


山城ガールむつみの出陣のススメ「いざ、大島砦へ！の巻」

大島砦は、栗山川に向かって張り出した丘陵の突端に築られました。大島砦は水上交通を掌握するために重要な城郭だったんだろうね！

大島砦

大島砦は栗山川に向かって張り出した「丸山」に築られました。詳細は不明ですが、千葉胤貞による築城とも伝わります。鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて多古(千田荘)を本拠としていた胤貞は、久保城(多古町)を居城として周辺にいくつかの城郭を築いたと伝わります。そのときに大島砦も築かれたと考えられています。大島砦の北方1.5kmには志摩城があります。志摩城は、九十九里浜から多古に入ってくる水上ルートの入口に位置し、とても重要な城だったことが推察できます。大島砦の眼下を流れる栗山川は、大島砦と志摩城の目の前で「多古橋川」「借当川」に分岐します。これらのことから、大島砦と志摩城は極めて重要な水上交通を掌握していたといっても過言ではありません。大島砦の西から北西に延びていた尾根は、江戸時代に削られました。それまでは志摩城を守り、隠すような地形をしていたとも考えられます。まさに志摩城の前面を見張り、防御する役目を担っていたのが大島砦だったと思われます。大島砦の麓には「船越」という字名が残っていて、この地域が舟運の発達したエリアだったことがわかります。船越は江戸時代に佐倉城主の土井大炊頭利勝の領地になりました。(土井利勝は1610年～1633年まで佐倉城に在城)利勝は栗山川の氾濫から船越の水田を守るために堤を築きました。利勝の職名を冠して「大炊堤」と呼ばれました。その堤には桜が植えられ、名所として親しまれています。なお、丸山から大炊堤をみることができます。



多古を通過していた太平洋航路！
航路において、犬吠崎は潮流が激しく、岩礁が多いため難所でした。そのため、犬吠崎沖を通らずに内陸を通るルートが利用されました。そのルートとは、九十九里から栗山川を遡上して志摩まで進み、志摩城の眼下で栗山川から分岐した借当川を進み、現在のふれあいパーク(匝瑳市)付近で丘越えて、樺の海に入ります。そして、現在の北浦、湊沼と進み、太平洋に出て東北へ。このように、栗山川と借当川は中世の水運の大動脈だったのです。

大島砦の麓には中世の雰囲気が残る集落があります。「船越」という字名が残っていて、この地に眠る歴史を感じることができます。



「低い山 県内No1」の丸山



大島砦が築かれた丸山は標高32m。千葉県内で一番低い山です。標高は低ですが、大島砦は水上交通の要衝地として、とても重要な役目を担いました。

丸山の山頂には熊野大神(丸山神社)が建っています。太平洋航路で和歌山方面と結びついていたことが推測できます！



大島砦の東側突端には、人工的な平場があります。大島砦の遺構の可能性が大きいです。

志摩城の近くで出土した丸木舟。多古町コミュニティプラザで、展示されています。



周辺の湖沼
中世の志摩城と大島砦の周辺には湖沼が広がっていました。縄文時代に海が入り込んでいた名残り、たくさんの丸木舟が栗山川、借当川流域から出土しています。その数、なんと全国出土の丸木舟の約5割を締めているとのこと！舟で行き交う人々の姿が浮かんできますね。



歴史&山城ナビゲーター・山城ガールむつみ
山城イベントや歴史イベントを開催。
歴×トキ QR 千葉城郭保存会副代表・三浦一族研究会副会長・多古城郭保存活用会アドバイザーなど。
SNSは「山城ガールむつみ」で検索！
HPは<https://www.rekitoki.com/>

